

ゲスト(パネリスト)

※敬称省略

GUEST(PANELIST)

【プロデューサー】

■瀬戸恒雄 (せと つねお)



プロデューサー。(株)石井輝男プロダクション 代表取締役。(株)バナック 代表取締役。1970年東映入社、77年より企画部プロデューサーとして活躍。映画・ビデオ・テレビ、アニメなど多岐にわたり数々の作品をプロデュース。多彩な企画力は業界屈指。映画では、『多羅尾伴内・鬼面村の惨劇』『暴力戦士』『天使の欲望』『二百三高地』『ダンブ渡り鳥』『大日本帝国』『誘拐報道』『悪女かまきり』『日本海大海戦 海ゆかば』『白蛇抄』『Wの悲劇』『ひとひらの雪』『野蠻人のように』『化身』『シャコタンブギ』『別れぬ理由』『疵』『桜の樹の下で』『ぼくとほくらの夏』『蛇女』『新・仁義の墓場』『やくざの詩OK! T E』『友情』『牛頭(ごず)』『J O H N E N・定の愛』『B R O O Dブラッド』『今日からヒットマン』など。ビデオでは『修羅がゆく』シリーズ、『極道三国志』シリーズ、『バトルロード』シリーズ、『修羅のみち』シリーズ、『猿飛佐助』シリーズ、『銭道(ぜにどう)』シリーズ、『横浜悪連隊物語』I・II、『新宿悪連隊物語』I・II、『新極道渡世の素敵な面々』『チャカ』I・II、『九ノ一金融道』『借玉』I~IV、『平成金融道』『惚れたらあかん代紋の掟』『許されざる者』I・II、『伝説のやくざボルド』I・II、『最後の博徒』I・II、『県警強行殺人班・鬼哭の戦場』I・II、『極道はクリスチャン』『太陽の傷』『怨喰』ほか。テレビでは、『大激闘』シリーズ、『特命刑事』シリーズ、『上役が遺した愛人』ほか。アニメでは、『なにわ遊侠伝』シリーズなど28本。この他に、桑原清・津島研郎・麻乃大樹のペンネームで24本の映画、ビデオ作品を手掛けている。また、全国各地の歴史・文化、映画祭に精通し、道内では“オホーツク網走フィルムフェスティバル(網走映画祭)”の開催を当初から支援している。

■楠 智晴 (くすのき とほる)



1973年生まれ、神奈川県出身。学習院大学卒業後、NTT入社。ITベンチャーを経て、2007年にアークエンタテインメントに入社、2008年の『ひゃくはち』(森義隆監督)、『蛇にピアス』(蜷川幸夫監督)に製作参加し、映画プロデューサーとしてのキャリアをスタートさせる。2009年には海外合作映画『台北に舞う雪』(フオ・ジェンチ監督)にCo-Producerとして参加。内田英治監督とは『ブラックエンジェルズ』(2011)、『世界最後の日々』(2012)に続く、3本目のプロデュース作品が『グレートフルデッド』となる。主なプロデュース作品は、『ゴメンナサイ』(2011/安里麻里監督)、『TESE』(2011/姜成明監督)、『ブラックエンジェルズ2&3』(2012/小美野昌史監督)、『Heart Beat』(2013/浅沼直也監督)。最新作は、2015年初夏公開の『きみはいい子』(呉美保監督)。

【俳優】

■笹野高史 (ささの たかし)



1948年生まれ、兵庫県出身。日本大学芸術学部映画学科在学中、自由劇場にスタッフとして入団。1972年に『ヴォイツェク』で初舞台を踏み、俳優活動をスタート、1979年の舞台『上海パンキング』のバクマツ役に注目を浴びる。劇団退団後、1985年『男はつらいよ 柴又より愛をこめて』以来、山田洋次監督作品の常連となり、『男はつらいよ』シリーズほか、『釣りバカ日誌』シリーズ等にも出演。『武士の一分』(2006)では、第30回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞した。映画、TVドラマ、舞台で様々な役を演じ、幅広く支持を得る俳優である。近年の映画では、『テルマエ・ロマエ』(2012/武内英樹監督)、『小さいうち』(2013/山田洋次監督)、『青天の霹靂』(2014/劇団ひとり監督)、『ふしぎな岬の物語』(2014/成島出監督)など多数、出演している。

■滝内公美 (たきうち くみ)



1989年生まれ、富山県出身。『グレートフルデッド』が映画初出演で、主演に大抜擢される。本作の撮影後に出演した『牙狼外伝桃幻の笛』(2013/大橋明監督)では、初のアクションを披露。また『横たわる彼女』(2014/戸田彬弘監督)が秋公開予定。今後も映画、舞台、CMなど活躍が期待される若手女優の一人である。

【元・島民】

■得能 宏 (とくのう ひろし)



1935年、色丹島 斜斗丹村生まれ。漁業、自営業(水産物製造販売)。根室漁業協同組合理事、千島連盟理事、元千島連盟根室支部支部長などを歴任。現在は、北方地域漁業権補償推進委員会理事、千島連盟援護問題等専門委員。千島歯舞諸島居住者連盟の「北方領土語り部」として全国各地に赴く。在島時の様子、根室へ引き揚げてからの生活などを伝えている。1945(昭和20年)9月1日の朝、ソ連軍により色丹島は、不法に占領される。その恐怖と不安の中、三年間、ソ連軍とその家族の人たちと混住生活を余儀なくされる。大人とも違う子どもたちの生きる道は困難を極め、苦しく過酷な日々を送る。家族と兄弟愛、そして双方の友好が生きた大きな支えとなる。終戦後の(1947年)昭和22年秋、13歳の時に色丹島を強制送還(樺太一函館)される。この間、生死を賭ける過酷な生活環境を乗り越えてやっと日本にたどり着く。色丹島での体験は、幼くも微笑ましい友愛を育む姿の純平とターニャを描く映画『ジョバンニの島』のモデルとなっている。

【進行】

■高橋和憲 (たかはし かずのり)



1948年、網走市生まれ。網走南ヶ丘高校卒、1971年、電気通信大学卒業後共同通信社外電部に入社。技術職員として国際ニュースを集配するネットワークの保守管理と無線通信の運用を担当。1987年~1990年、大阪支社技術部、全国47都道府県の新聞社と放送局にニュースを配信するコンピュータの管理運用、記者に同行し、取材現場から記事・写真、映像を電送する業務に従事。2002年~2005年、名古屋支社技術部長、2008年6月、東京本社技術部長職を定年退職した。退職後、故郷Uターンし旧呼人郵便局をリフォーム、2009年、自営の事務所・共同インフォメーションを設立。初心者向けパソコン教室を表看板にし、オホーツク網走フィルムフェスティバルのほか、網走ジャズフェスティバルなどオホーツクイベントに当初から積極的に参加。映画『大地の詩』のロケ地・博物館網走監獄で、刑務所職員役としてエキストラ出演する。原作「留岡幸助物語」の著者・藤井常文氏は高校時代の同級生。

■平野雅久 (ひらの まさひさ)



網走市生まれ。東海大学建築学科卒。1984年に市職員採用後、都市開発課、社会福祉課などの部局や北海道庁への出向を経て、現在、網走市監査事務局に勤務。この間、一級建築士などの資格を活かして、確認申請や開発行為の審査、都市計画(街づくり)、太陽光発電の推進、瀧湧湖水鳥・湿地センターの整備など、幅広い業務に携わった。2008年、数々の映画・ドラマのロケ地・オホーツクの魅力をPRし、映画館の無い網走で映画を観る・語る・創る文化を育もうと映画祭「オホーツク網走フィルムフェスティバル」を有志と企画し、博物館網走監獄で初開催。2年目からは会場をエコーセンターに移動。毎年、『網走番外地』シリーズのほか、網走で撮影された『ケンタとジュンとカヨちゃんの国』や中国映画『狙った恋の落とし方。』など多くの地元ロケ映画の上映を実現している。また、ロケの支援、ロケ地マップの作成、監督を講師に招く「映画教室」の開催など、「映像資源」を活かした文化活動を展開。『大地の詩』(2011)では、刑務所の看守役としてエキストラ出演している。2013年には『抱きしめたい』(2014)の地元ロケ誘致に関わる。

■前田奈々 (まえだ なな)



1974年、網走市生まれ。1998年4月からHeavenに勤め、現在経営者。04年に網走青年会議所に入会し、13年より「領土領海問題解決推進委員会」委員長。同年 3月 網走市内の高校生16名と共に「北方領土問題」を学ぶため根室へ泊二日の研修会を開催。同年 5月、ピザなし訪問で国後島へ。同年 6月、「領土領海プログラム出前講座」を実施し、網走第五中学校一学年生徒と網走第二中学校全校生徒が受講。同年 9月、研修会に参加した高校生とともに「領土領海シンポジウム」を主催し、根室市内高校生とロシア人で山梨学院大学名誉教授のコンスタンチン・サルキソフ氏を招き、パネルディスカッションを行う。14年度は「領土領海プログラム出前講座」を小学校へ広げる予定であり、北方期成同盟網走支部協力員の活動を含めて「北方領土問題」をライフワークにしている。

1児の母で母との3人暮らし。夜の仕事のため、子どもには多くの映画を見せてきた。親子で何度も観た映画は『火垂るの墓』。最近では「ジブリ作品」を見る機会が多い。『ジョバンニの島』を観て感動し、親子で「北方領土問題」と「戦争の悲惨さ」を話し合っている。

オホーツク網走フィルムフェスティバル実行委員会(2014)

オホーツク・網走において、地域資源を活かした「映像文化」と「まち」の振興を図るため、映像と創作活動を支援し、映画上映、映画対談、映画教室、交流会などを通して、映画に親しむ環境を創出します。

石川 玲司	石崎 啓吾	伊藤 隼太	稲毛 孝貴	茨木 秀源	岩崎 和馬	梅津 美沙	逢坂 優希	大崎 裕香	大島 未裕	小川鈴ノ介	小川 実咲
加藤 典幸	上谷 賢太	菊地 翔子	菊地 徳孝	久保 徹	小村 信行	齊藤 一貴	齋藤利菜	佐藤紀冬未	澤 桜	塩島 寛	柴野 敬大
島田 幸	嶋田 悠亮	下村 翔太	下山 周平	鈴木 美里	高木克好彦	田形 篤	高橋 和憲	高島 正明	高島由美子	高平 佳奈	立花 健
津田 篤史	壺内 章矢	勅使川原貴	寺中 賢武	長岡 慎	中嶋 賢一	中原 章博	中村 守宏	浜名みゆき	浜名 靖博	半田ひとみ	平澤 龍也
平野 雅久	福田 隆彦	古川 幸一	本間 百展	前田 奈々	牧野 歩未	松野 隼	松野裕美子	光瀬 麻紀	渡辺 裕人	ほか	ボランティア ※敬称略 / 50音順